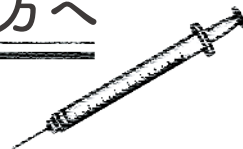




ジーラスタ®皮下注を投与されるドナーの方へ

お薬説明書



Question

1

ジーラスタ®皮下注とはどんな薬？

A ジーラスタ®皮下注は、ドナーの骨髄から造血幹細胞を動員させ、末梢血(全身を流れている血液)の中に造血幹細胞を増やします。末梢血幹細胞採取の3~5日前に1回だけ投与します。

Question

2

ジーラスタ®皮下注投与後にあらわれる副作用は？

A ジーラスタ®皮下注投与後は以下に記載した副作用があらわれることがあります。

本剤投与後、これらの症状や他に気になる症状があらわれた場合には、担当の医師あるいは看護師、薬剤師に連絡してください。

● 健常人ドナーを対象とした国内臨床試験で頻度の高かった副作用(10%以上)

血中アルカリホスファターゼ増加、血中乳酸脱水素酵素増加、背部痛*、関節痛*、血小板数減少、血中尿酸増加、肝機能異常(アラニンアミノトランスフェラーゼ増加、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加)、悪心、頭痛

* 背部痛・関節痛:本剤と同じく末梢血に造血幹細胞を増やす効果をもつお薬(G-CSF[granulocyte colony-stimulating factor: 顆粒球コロニー刺激因子]と呼ばれる製剤)でよく見られている副作用であり、好中球が骨髄の中で急激に増えているために起こると考えられています。関節・腰・背中への痛みへの対応として、非麻薬性の鎮痛剤が処方されることがあります。

なお、本剤はQ1で述べた働きの他に、骨髄中で好中球(白血球)のもとになる細胞(前駆細胞)の増殖を促し、好中球が増えるのを助ける働きもあり、がん化学療法後の発熱性好中球減少症の発症を抑制する目的で広く使用されてきました。下記のような副作用が報告されていますので、主な自覚症状の例を示します。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック、アナフィラキシー(薬剤に対する過敏反応)(いずれも頻度不明)	冷汗、顔面蒼白、手足が冷たい、呼吸困難(息苦しさ)、じん麻疹、めまい、喉のかゆみ
間質性肺疾患(0.5%)	息切れ、息苦しさ、咳、発熱
急性呼吸窮迫症候群(頻度不明)	息切れ、息苦しさ、呼吸がはやくなる、手足の爪や唇が青紫色になる
脾腫(0.3%)・脾破裂(頻度不明)	左上腹部の違和感・痛み
毛細血管漏出症候群(頻度不明)	全身のむくみ、急激に体重が増える、心拍数増加、息切れ、めまい
Sweet症候群(頻度不明)	発熱、痛みを伴う赤く盛り上がった発疹・紅斑
皮膚血管炎(頻度不明)	発熱、あおざがができる、血液を含んだ水ぶくれ
大型血管炎(頻度不明)	発熱、倦怠感、頭痛、首など様々な部位の痛み

注)同種末梢血幹細胞移植のための造血幹細胞の末梢血中への動員の臨床試験では、上記の重大な副作用は報告されていない。発現頻度は、がん化学療法による発熱性好中球減少症の発症抑制の臨床試験成績に基づく。

日本骨髄バンクならびに日本造血・免疫細胞療法学会から、骨髄または末梢血幹細胞の提供が決定した方を対象に「骨髄・末梢血幹細胞ドナー手帳」が配布されています。
骨髄または末梢血幹細胞提供に関する注意点がまとめられているので、ご参照ください。

【ドナー手帳に関する問い合わせ先】 公益財団法人 日本骨髄バンク(<https://www.jmdp.or.jp/>)
一般社団法人 日本造血・免疫細胞療法学会(<https://www.jshct.com/>)

協和キリン株式会社